

第8日

令和8年6月18日（木）

午後2時20分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可します。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君） 皆さん、こんにちは。今定例会の一般質問の大トリ、最後になりました、16番議員の実藤輝夫と申します。3月議会でも、林市長の、結果的には最後の議会でトリを務めさせていただきました。今回、新たに中島市長が誕生され、最後の一般質問と。皆さんの中には何で実藤議員だけが最後のトリかというようなこともちらちら聞きますが。議会ではあまり認められておりませんけども、くじ運の神様が私に最後にやれというようなことが言われたのではないかなと思っております。

今回、市長選のことについていろいろ話をしていきますが、一般質問をするかどうかという中で、選挙戦が始まる1か月ぐらい前から候補者の名前が出てきました。その中で、私のほうに電話が何件もありまして、「中島さんってどういう人」って、「どんなことをされる」と私に聞かれるわけですね。中島議員、当時ですけど、私も個人的によく付き合ったこともないし、いろいろ一緒に活動したということもほとんどありませんでした。一般質問でなされることを聞くだけで、どうやったら朝倉市がよくなるのかという問いがいつもありまして、そして、参考書みたいな本が置かれまして、インターネットといえますか、それをしょっちゅう見られている、その姿しか私の頭にはありません。

今日は、そうした市民の声がどういう方かと、今は中島市長という形になりましたので、一般質問を通じて、私なりに人となりを聞いていきたい。特に、これは政治姿勢とか、重要な問題になります。

それと、今回市長に就任されておめでとうございます。とは言いながら、私も長年議員生活をやっておりまして、8人の、今回で8人になりますが、市長とお会いしてまいりました。本当におめでたいのかなと、皆さん、どう思いますか。8人の市長さんの辞め方、その後を見ますと、私が知る限り、そうそうおめでたいとは言えない。

昨日、相撲の話がありました。私も小さいころから横綱になることが目的ではなくて、あれは目標なんだと。横綱というのは綱を張るといって、それなりの人格と成績を上げていかなければならない。それが横綱としての地位の綱の重みであり、重責なんだと。本当におめでたと言われるのは、立派な綱を張り、双葉山や大鵬のような実績を残して、惜しまれながら引退していく。そのときに本当に横綱になってよかったなど、おめでたうことを言う。これは、市長に限らず、あらゆる地位につく人にとっては、本当に心しなければならぬことだろうと。

私の前の13人、全て中島市長の就任をお祝いされました。しかし、私は、今日、金川の

方も来られていますが、行政と議会というのは車の両輪であると。しかし、その意味は2つありまして、大きな目的、市民、市のためになるならば協働してやるということは一つありますが、本来の趣旨は二元代表制の下に2つの両輪として均衡とバランスを取りながら、チェック・アンド・バランスという形で2つの車が回らなければならない。そこには、行政から議会への付度、議会から行政への付度、そのようなことはあってはならない。

議会は、第一の使命は、権力がある行政に対するチェックであります。これは、かつて全国市議会事務局長が講演されたときに、私どもは、この多くの方が聞いていると思いますが、それを忘れてはならないと。

それと同時に、私たちは、今日まで13人、私を含めて14名ですが、本当に今の議員は、私が過去の四十数年前から比べると、品位といい優しさといい、本当に近年の市長は恵まれているなと思います。厳しい質問はされますが、決してそれ以上に追及はされないし、問題の最後にはありがとうございますという言葉が必ず述べられます。私の知る限りでは、私が当初入った頃はけんけんがくがく、そして、緊張し、朝倉市、甘木市の時代でしたが、いろいろな問題を抱えながら、議会、一般質問、委員会そして全員協議会で本当に、命をかけるということは大げさですが、本当に体を張っての討議、そして、具体的な活動がありました。

私も幾つかの活動をいたしてきましたが、今回最後になりましたので、この機会を使いまして、これからの議員の在り方、議会の在り方、今回、私が心にとめたのは、柴山議員の発言であります。昔懐かしく傍聴席からやじが飛びました。「ああ、やった」と私は心に思いました。そのやじの中身は「失礼な」ということです。これもまた珍しい。傍聴席に来られている方は、大概支援者の方、議員の支援者の方なんですが、その方は市長の支援者です。その中身は、私から見たら失礼とはとんでもない。心から柴山議員は、「市長はこうあるべきだ」と、「こういう仕事をしなきゃならんのだ」ということで言われたことです。その言葉の意味をどう理解されたか知りませんが、私と同時に、言葉は少し激しいところがありますので、恐らくや叱責をしているような形でしょう。しかし、それは違います。

本来の議会というのは、自由闊達なる表現の自由、これを前提として行政に物申していく。これがなくなれば、皆さん御承知のとおり、今、全国で津々浦々で市長、町長の問題、議会の専横、そういった問題が起こっております。これを知らない市民・国民は一人もないはずです。これがどうして起こってくるのか。それは、先ほど言いました付度というような、昔はあんまり使っておりませんでしたけども、最近、はやってまいりましたこの言葉に象徴されるのではないかと思います。

私が、今回の中島新市長の最後の一般質問をするというのも、何か神のおぼしめしではないかというふうに思っていますので、傍聴席の皆さん、今日は、私の発言において、市長はじめ執行部が不興を感じ、議員の皆さんからひんしゅくを買い、傍聴席の方からやじ

が飛ぶ。SNSを利用する方から批判が出る、これこそ私が望むところであります。どうか皆さん、私の発言に対しまして、心置きなく、先ほど言った不興、ひんしゅく、批判・不満を持ち、各自でこういうことを実藤は言ったというようなことを言っていただきたいと思います。

とりわけSNSを駆使していろいろなことをやられる皆さん方には、正々堂々、SNSで他人を批判する、名前を出して堂々とおのれの意見を述べるべきです。名前を伏して一方的に他人を批判・批評する。私からするとひきょう千万、私は何か問題があれば、当然、懲罰あるいは名誉棄損、受けて立ちます。こういった信念で、今日は最後のトリとしての一般質問に当たりたいと思います。

以下、質問席より続行いたします。

(16番実藤輝夫君降壇)

○議長（小島清人君） 16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君） まず、市長、今回の所信表明に基づくものですが、その前提となる考え方、市長の政治姿勢、そういったことを知るためには、何かないかなと思ったら、ちょうど3か月前、中島市議員時代に一般質問される、これが一番、今回市長を知る、考え方を知る手だてであろうと思って、これを議会事務局からもらいました。

その中で、まず第1点、最後のほうに、前市長の林市長に対して非常に厳しい質問がっております。前置きは抜きにして結論だけ申しますと、市長を狙うものは過去の総括や未来のような展望といったものが必要、それがなかったと、林市長はなかったと。私は残念に感じました。総括と展望のない意思表示はリーダーとして説明が十分とは言えないという印象を持っておりますと。林市政の2期8年を振り返って総点検することから達成できないものと未達成のものと振り分けて仕分けして整理し、3期目に向けた重要課題をとというようなことが質問されて、自分なりの考えと林市長が答弁されます。

今回、こういう質問をされた以上、市長として、どういう19年の市議員の総括をされて、今回市長になろうと、その総括が、私は聞いていない。まず、その点についてお伺いしたいと思います。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 19年の総括、なかなか難しいんですけども、先ほど実藤議員がおっしゃられましたように、議会の役割というのはチェックが一番だと思っております。そういった中で、私は一般質問をたくさん立たせていただきまして、いろいろな提案をさせていただきましたけども、私が一般質問をした中で、幾つ実現ができただろうと、政策に落とし込めたものがあるだろうということは反省をいたしまして、今回、執行する側に回ってみたいと思ひまして、今回、この席に今、立たせていただいております。

そういった意味では、チェック機能は自分としてやっていきましたけれども、やはり議員としての限界があったのかなというふうに総括しております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 私としては、納得できないような総括ですね。私も学生時代、総括という言葉が学生の雄弁会で使ってまいりました。総括という言葉は、失敗すれば、相手に理解できなければ、私たちは、1週間、1か月、その会には出てこれないぐらいの重みがあるんですよ。きちんとした総括がなされなければならない。

今日は時間が70分になりましたけど、時間があんまりありませんので。今回の市長選挙に見える朝倉市の将来と、非常に、私は今回の市長選挙で失望し、将来に不安を感じました。これ、今まで13人の中の五、六人の方がSNSとの関係とか、それから、公開討論会との関係を質疑されました。これは、その信憑をこの段階で幾ら言っても、こうじゃないか、こうじゃないかとやり取りだけで、それが先まで進まなかった。市長はそこが違うとか、こうだったと言え、それを追求する機関ではない、百条委員会ではないんで。だから、それはお互いが理解し信頼するかどうかという話なんですよ。

これは、しかし、市民にいかにも不信を置いたかということ、私は考えなければならん。私も皆さんが質問してきましたので、市長がどうだこうだという話を一応置いて、今回のSNSが何を与えたかと、何を朝倉市に、市民に傷つけたかということ、これが大きな問題だろうと。これ、今回を見ながら、本当に私の耳に入ってくるのは、林市長批判ばかり。そして、「はあ」と言うような話。これを聞いた時に、兵庫県の県知事選挙がありました。その何とかという知事がパワハラ、その他で辞任して、再度出馬して、もう恐らくやというふうにもう当選はないというふうに言われたのが、NHK何とかの立花氏が徹底してSNSで、斎藤さんだったかな、その知事を支持し、それを通すために、他の候補者を批判した。それで逆転して、彼は当選したと。こんなことがあっていいのだろうかということがありましたけども、どうしようもない。いかんともし難い。

それを、私は今回感じまして、こういうやり方、この人を当選させるということにおいて、本人は知っているか知らないかはもうこれは先ほどから言ったように本人しか分からないんで、それを追及しませんが、その周りの連中が、議員が先ほどからずっと指摘したような、信じられないようなことが載せられて、そして、それをほとんどの人が「やっぱね」ということになってきたんですよ。

こういうやり方が本来の選挙の在り方かどうかというのが一つあります。決して、これが今後あってはならない。やり方についても、市はどうだこうだと言いますけども、候補者としてどうすべきかというのが今後あると思います。1期で終わるつもりでないとすれば。また、そういう人たちが集まって、私もいろいろ聞いていますけど、それ以上はここでは言えませんが、本当に不愉快千万な話を幾つも聞いております。

それは、これもちろっとほかの議員が言いましたけども、来年の地方統一選における県議選、市会議員選挙、朝倉市も迎えるわけですが、そういったことを使った方が当選し、本来、そんなに一生懸命やっている人が、それを使わなかったために落ちるとか、そうい

うことがあってはならない。ましてや、市民をだまして、そして、当選してくると、それが議会を牛耳ってしまう。

もう一つ、これが心配なのは、今回のSNSの人たちが動いた場合は、市長は安泰ですよ。誰が批判されると思いますか。何でできないのかと。市長はやろうと言ったんだけど、行政、職員がやらないんだというふうに流されたら、あなたたちが全部悪者になってしまいます。朝倉市の職員はこんな態度だ、こんなことしか言わんと、答弁がと。議会もそうですよ。どんな形で出るか分からないけども、恐らく、非常にゆがんだ形の将来的な行政が行われ、市民はそれに基づいてやっていくということになると思います。

市長、これについて、私の危惧はどう思いますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず、私がちょっと分からないところがございまして、今回、林市長に当たられると思うんですけども、批判の部分がたくさん出たということを聞いておりますが、私は自分で検索はしておりませんので、だからかもしれないんですけども、不思議なもので、私は全然それというのは出会ってないんです。ですから、そこは本当にアルゴリズムといいますか、私はやっぱり自分のことしか見ないんだろうなというふうに思っております。

それと、私を応援してくださった方に関しましては、私が見る限りでは、悪い方はいらっしやなくて、本当に朝倉市のことを思って朝倉市を変えたいんだと、そういった方が多かったかと、支援者の方が。純粋なその思いで、私に託してみようと、賭けてみようということで応援していただいたと思っておりますので、そういった悪い方々ではなかったというふうに、私は信じております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 当たり前じゃないですか。私があなを応援するときに、ほかの人と、あなたの支援者と皆さん、あなたも含めて、そんな悪い態度を取ったりしますか。じゃ、頑張ってください、中島さん、あなたは新市長にならないかんですよって、いい人でしょう、あなたにとっては。そのために、私はどういうことをするかって、それをあなたに一言言うかどうかは別ですよ。立花という人が斎藤知事とどういうやり取りをしたかは分かりませんけども。

そういう思いでもってやっているのが広がってしまっ、それが行政を動かしてしまうような形になるというこの危険性が、だから、中島市長として、その当時にどうだった、こうだったかというのは、この場では問わないと、先ほど言いました。水かけ論になってしまいますからね。それは、皆さん方一般の議員の方々も、幾らこうだったって出したって、先ほどのような答弁がずっと繰り返されてきたわけですよ。そうじゃなくて、これのような形になったときに、どういうふうな状態が朝倉市に起こってくるのかという、うそに塗られた行政、市政というのがそのまま信じてしまうような形になってしまうというこ

との危険性ということです。

これは次の問題もありますのでそう長くやりませんが、それに基づいて、投票率が46.3%で、もう今まで信じられないような数字なんですね。今回の傍聴席の金川の方たちは一生懸命あなたを応援したんで、選挙の真っただ中かもしれませんが、それ以外のほとんど、私の電話がかかってくる、選挙はありよるとねと。ほとんどの方が分からなかったと。結果的には、無関心になってしまう。

市長は通ったといって、誰かが絶大なる支援を受けてという言葉が誰かの一般質問の中にありましたが、絶大な支援と思いますか。4万七百三十何人の中でも1万ちょっとですよ。歴代の中でも4人に1人しかあなたを明確に支持してはいない。八千何百の票が他の候補に流れ、それ以上の2万以上の票は投票されなくて、いろんな理由で投票されなかったとかあったにしても、無関心だったと。そんな中山間地域5万弱の中よりも下の中小都市において、50%を切る投票率というのは本当にゆゆしきことであります。その証拠に、高木とか、そういうところは、昔は市議会議員選挙八十数%ですからね。市長選挙でもほとんど七十何%です。今回58か59ぐらいの、そんな率ですからね。少なくとも、数の問題より率ですから、それだけ無関心になってしまったという、この責任は、これはかつての市長も含め議員の私たちも含め、反省をしないといかん。市民だけが悪いのではない。市政に関心を持てないような状態にしてしまった。

しかも、今回の市長選が、私が述べたような形での市長選だったということで、私は、本当に危惧しないといかんと考えておりますが、この点についてはどうですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 過去の朝倉市の投票率を見ておりますと、確かに過去最低だったんですけれども、では、近隣の市町村と比べてはどうだろうかということを私は考えました。私と同じ日に嘉麻市長選挙がありまして、嘉麻市は、私どもの隣の市でございます。嘉麻市は投票率が49%でした。そういった意味では、あまり変わらないのかなという印象を私は持っております。

それと、実藤議員がおっしゃいますように、選挙活動をして、朝倉全市を回ったわけなんですけれども、市民の関心といいますか、熱量の部分でいくと、私が感じましたのは、甘木の町なかよりも、どちらかというと、周辺部と言ったら言葉が悪いんですけども、人口密度が低いところ、そこのほうが熱量が高かったのかなと考えております。

最後に、今回の選挙制度、それは、実藤議員は特殊な選挙だったというふうにおっしゃってありますけれども、制度にのっとった選挙でございまして、林市長に投票された方、それから、私に投票された方、それは、それぞれの良識の下に、それぞれに票を託していただいたんだと考えております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 行政、政治というか、これは2つ、決算委員会でもそうなんです

けど、法令に違反しているかどうかという問題と、是か非かという問題というのがあるわけですね。だから、監査委員がいて、法令がどのようにやっているかどうかというのを決算でちゃんと前提でしてあります。議会でやるのは、政治的判断の下に是か非かと。適正に、それは法律に適正じゃなくて、政治的感覚の中で、これは適正かどうか、これでよかったのかと調べていくんですよ。選挙も一緒ですよ。あなたは法令違反があれば、これですよ。当然無効になります。あるいは、失格します。

そうじゃなくて、それを乗り越えれば、当然、当選としてなってくるんだけど、こういうやり方で通って是かと。だから、斎藤兵庫県知事はいろいろたたかれても、法律に違反していないという形になりましたので、あのやり方が。だから、今、県知事であるわけです。

しかし、それを私たちは峻別していかないといけない。特に議員は、この問題をきちっとしないかん。だから、今後の問題として、私はこれを引きずっていくだろうというふうに思います。

でも、市長はまだ当選して2か月ですね。だから、これから4年間在籍されるわけですから、それもどうなるか分かりませんが、恐らくなるかもしれませんが。こういった前提の下に、きちっと自分のものを反省しながら、そういった状況というのを個人的にいろいろ反省する気はないかもしれませんが、そうじゃなくて、こういう状況があったということについて、先ほどから言われていることに対しては、自分も身を正すということをほかの議員には言われていましたね。私のような言い方をすると、ムカッとして言われんかもしれませんがね。

しかし、言い方の問題はそれぞれです。私は、皆さん方のように紳士ではありませんから、思ったことを「です」と言うのが、住民の私の代表としてのやり方ですので、御承知おきをお願いします。

続きまして、これは、これに基づく市長の市政というものを考えていくんですが、先ほども徳永議員のときに挑戦という言葉がある、英語で言うとチャレンジ、チャレンジをしていかないかと。という話で、一生懸命、二人はのったような形でやり取りでした。

ところが、このチャレンジというものについて刷新とかいう言葉が、あなたの選挙では出てまいりました。今も出ております。これをどのように捉えて、そういうふうに言われているのか。そして、今後、どのような市政にその言葉を、もう一度、簡潔に言ってください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 先ほどの投票率の話も関係するんですけども、投票率が低いということは、政治が市民から遠いのかなというふうに感じておりました。投票に行ってもあまり変わらない、そういったものの表れではないかというふうに考えております。これは私も反省をしないといけない部分だと思っておりますので、そこにつきましては、私が、

今から市民の皆様がこの市政に参加することによって変わっていくというのを示していかないといけないというふうに考えております。

ですから、そういった市民の失望といいますか、どうせ変わらないんだという部分は、私が今までの流れといいますか、空気を変えるという、簡単なことではないですけども、そういった挑戦をしていきたいと思っています。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） このチャレンジという言葉が一般、挑戦という言葉を知ると、これは何かをやろうと、新しいものややっていくんだという形を取るときに、チャレンジしようという言葉を使うと思うんですよね、私の認識では。一緒だと思うんだけど。

じゃ、刷新という言葉を使ったときには、今までの古いものとかいろんな問題があるものを新しく刷り直す、だから刷新って言うんですよね。だから、そういったことで前向きに上っていこうというような感じじゃないかなと思って質問しました。

というのは、あなたは3か月前の一般質問の中で、恐らくこの中でこの言葉を知っている人があったらすごいと思うんですけど、「下山の思想」という言葉を使われて、二、三度ぐらい使われています、これは。「下山の思想」ということを聞いて、すぐ分かる方はおられますかね。

さて、あなたにとって、これはあなたが言った言葉です、これは3か月前に。「下山の思想」とは一体どういうことを表し、どういう思いで言われたのか、ちょっとお聞きしたい。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 司馬遼太郎の小説の中に「坂の上の雲」というのがありますけれども、頂の上にかかる雲を目指して登りつめていく、俗に言う、成長していくというような意味でございます。

その逆でございまして、なかなか人口減少のトレンドというのは変えられませんので、世の中がだんだん小さくなっていく、物事を整理していくような、そういったイメージで、山を下りる、そういった考え方というのにも必要ではないかというふうに考えております。

私は、福岡に近いということで、朝倉市にはまだまだチャンスはあると思うんですが、福岡市も永遠に成長し続けるわけではありませんで、どこか「下山の思想」というのが必要でありますので、頭の片隅に「下山の思想」というのは世の中の流れとして必要ではないかというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） いきなり「坂の上の雲」が出てきました。私、本を持っていますし、書棚にあります。読みました。3巻ある。テレビも見ました。ばっちり理解しております。それじゃないでしょう。これは五木寛之さんの本が「下山の思想」という形で出てきてるんですよ、ずらっと。

「下山の思想」というのは、登山の反対で下山するという言葉ですよ。なぜ、私は、これは議員時代に中島市長がこれを出して、そして、私が今言っているかということ、人口問題に関して、だから、「下山の思想」というのは、今の私の心境です。私は、今聞いている方は、えらい厳しく、あんなんでは、市長支持者は何という失礼な言い方をしよるかというふうに思うかもしれませんが、私、孫に会うときは優しいおじいちゃんですもんね。

だから、人はそれぞれの立場によって、やらないかんときの言葉と優しくするときの立場って、私もおかげさまでゴルフ会友達もいっぱいおりますし、楽しい人生を送っておりますが。今、「下山の思想」なんです。78歳、今年79歳になりますが、一生懸命登って、登りつめようとして、落ちてきました。登っちゃ落ち、登っちゃ落ちの人生です。

しかし、今見ると、この「下山の思想」を五木寛之さんの本を見ながら、進むとゆっくりとチャレンジということにこだわらず、現状の中でゆっくりと眺めながら、そして、何かできるものをやっていこうではないか。それが次の下山していくときに、一気に登って行って登頂しようという気持ちではなくて、ゆっくり下りながら、自然を眺め、そして一歩一歩下りながら、人生を考え、自然とともに生きていく。このような生き方を「下山の思想」として述べられている。

行政においてこれを言うならば、あまり無理をせず、チャレンジとして新しいものがあるかどうかと言わないで、今の、そろそろこれで、どう皆さん考えますか。

一方で、チャレンジと言いながら、このバランスが本当に取れるのかという形になるんですよ。この一般質問の中に、中島市長は、議員時代に「下山の思想」といいますか、そういったものも必要ではないかというふうに思っている。もちろん朝倉市の人口というものはあらがっていききたいというふうに、流れに逆らって新しい人口を獲得していききたいと、全くいいことですよね、当然のこと。

ところが一方で、今度は、朝倉市というものを見たときに、朝倉市は田舎で自然豊かで牧歌的であると考えます。そういった朝倉市のいいところは、私は守っていききたいと思っております。人口を増やそうとするのではなく、「下山の思想」で、今ある朝倉市のよいところを残し続けていけばよいと思います。

13人の議員が言われたいろんな問題に対してとうとうと答弁されましたけど、これはみんな、この「下山の思想」ではなくて、私から見ると「登山の思想」だったと思います。

人口が増えたらいいのか、減ったらいいのかという、何か単純な問いに対しても、自分がそれを一方ではこう言い、一方ではこう言っていると。本音はどこにあるのかという政治姿勢の問題が、私は、これを見ながら感じました。これ、両方どっちを取っても、そのときの状況次第ではいいところがあるんですよ。それをチェックアンドバランスというふうな形で本当にやっていけるのかということが大事。

だから、一方に偏らないという、答弁を私がするとすればそうするんですけど、市長も

この2つを、私からすると矛盾するというような感じのこの考え方に対して、13人の、私の質問に対していろいろ前向きに答えられてきましたんで、これは後からも述べますが、財政問題も必ず含んでまいりますので、早々、今日まで13人の方に述べられていような、理路整然としたような総論的な、抽象的な話では収まりがつかない話だと私は思いますので、その点についてどう思いますか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 「下山の思想」と挑戦するということのバランスについてということをお答えすればいいんでしょうか。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 一方で挑戦とか刷新と言いながら、一方で「下山の思想」で、この「下山の思想」というのはそういうことではなくて、心豊かな人生を送り、ゆっくりと楽しみながら山を楽しみ、自然を楽しみながら、人生あるいは行政をやっていくんですよという、これ、地方自治体に対してはそういうふうな言い方になります。

そうすると、一方で、人口増加は必要なんだと言いながら、一方では、その必要性にかかわらずというふうに言い方をして、そして、物事を捉えて行政をやっていこうというのは矛盾ではないですかというふうに言っています。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私の好きな漫画のスラムダンクに「諦めたらゲームオーバー」という言葉があります。私は、朝倉市はまだ本気でチャレンジをする余地が残っていると思っていますので、私は市長としてチャレンジをしていきたいと思っております。

そのチャレンジをして、それがやはり難しかったと、駄目だったということであれば、下山をせざるを得ないのかなと思っておりますが、今の段階では、朝倉市はまだ下山をする段階ではないというふうに考えております。

そのために、私は市長になりましたので、チャレンジして、市民の皆様と一緒にチャレンジをしていきたいと考えています。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） これ以上は言いませんけどね。この3か月前ですもんね、これは。そして、あなたが議員の最後に市長になると宣言した後の質問です、3月ですよ、これは。来たじゃないですか、私たちのところにみんな。だから、そのときには、自分は市長になるんだということで、もう構想を持って、今度出された所信表明は公約も全くそのままが出てきましたけども。だから、そういうときの、この、一方ではこう思いながら、一方ではこう思うというふうな形のあなたの特有の形なのかなと。これは、市民から聞かれた「中島さんってどういう人」って。今は「中島市長はどういう人って」ということでの一貫として、「へえ。だって、一市民ではないんだから、政治信条、政治信念、こういうものを持った上での話でなければ意味がない」、これは、まさに議員と市長との対話を載せ

た3か月前、もう一番新しいあなたの考え方が載っているわけですよ。

だから、こういう状況の中で本当にいいのかなというふうな形を私は思いました。五、六人の方がSNSや選挙の在り方がいいのかなというふうに思ったということですけども。同じように、この問いを私は皆さん方に、こういう形でやる。

今までの一般質問とは少し違いますのでね、私のは。どちらかというとな柴山議員のような感じでやっていますんで、私も負けないように厳しく、どこかやじが飛ぶぐらいのつもりでやっていますからね。

次、この問題を踏まえながら、所信表明の施策というものを見ました。これもまた同じように、五、六名の方が、ほとんどですね、これを見たときに、おかしいじゃないかと私も思いました。これは、日常のルーティンという言葉で御存じですね、もちろん、行政の日常的な仕事ですよ。やらなきゃいけない。この所信表明に出ているものは約1,800ある全国市町村の中で、これをやってないところがどこにあると思いますか。全部、どこの市町村でも、この近隣でも、若者をS t o pする、いろいろなことを施策を書いてあることを、日常的な行政施策としてやっているんですよ。それはもう皆さん方が行政視察に行かれた、私なんかも何十回と行きました。必ず議会だよりというのをもらいます。

そして、一般質問も書いてあります。いろんな人が、行政施策があつて、そして、行政一般。ほとんど私たちが言っているようなものと3分の2は絡んでいます。地域性がある問題だけが違います。そうすると、このような問題をみんな全国の人たちが津々浦々がやってくるということを思います。

この問題も後でいろんなことをやっていく上で話をしていきますが、この所信表明は、私としては、非常にこれは新しい、先ほど挑戦とか13人の議員、3日にわたってやってきた、私からすると抽象的で具体性のない話がずっときましたけども、2か月という形ですけども、次の話に持っていくしますので、しっかりと。

やはり私も、今日の議員の皆さん方たちが言われたように、所信表明の中に一番に来るのが、やっぱり安心安全な災害に強いまちづくりだ、これをやらなかったら、まさに風評被害で、実際のところ、その災害の風評被害とともに、今度は外人のマンションのまた風評被害があつてダブルパンチ。しかし、やっぱりその後の話は別として、この災害というのは本当に、私たちが抱えている問題です。それは、先ほどからあなたも一生懸命それを出さなかったというのを話でされていました。

しかし、私は、うがった見方で、どの立場に立つかによって、あなたの弁護士ならば、私に反論するでしょう。私の弁護士、いけんじゃったら、もっと追及するでしょうという話ですよ。これを一番出さなかったのは反省しますとかいう形なんですか、本当に。やっぱり一番最初に、誰が考えても、この中の皆さんがずっとやってきたように、この17名か、私を入れて、の方が市長になったら、恐らく僕はこの災害の問題と河川治水対策ちゅうのを、今、当面、朝倉市がやらなきゃ、内部的な問題だけじゃないんですよ。所信表明の施

策というのは、何が大事かといいますと、対外的にそういった状況にある朝倉市をどうやって浮揚させるか。もう本当に、朝倉市に来ようと思ったけども、若い夫婦が、これは信用できるような人との話ということです。私が直接聞いたわけじゃない。親が反対して、ここに来なくなりましたという話があるんですよ、実際に。だから、風評被害が本当に風評被害だけではなくて、実際起こっている。このときに、これを朝倉市は新市長としてやっていきますというのが出てこないといかん。これについて、市長は、再度もう、いろいろ言われてきましたから、それについても、しかし、傍聴に初めて来られた方もおりますし、私の録画を見られる方もおりますので、お答えください。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私の施政方針につきましては、選挙のリーフレットを基につくっております。選挙のリーフレットは、一候補者として特に力を入れていきたいということをお願いさせていただきました。その中で、災害、安心安全の部分につきましては、土台があるので、それはもう前提として、選択項目としては入れないで、土台として、もう共通認識だろうという認識でリーフレットはつくらせていただきました。

そして、私が、今度は市長となりまして、施政方針というペーパーをつくったわけですが、これは必ずしもリーフレットと同じものではなくていいはずなんです。全然別のことを書いてもいいというふうに私は考えています。

そういった中で、災害のことを市長として入れていなかったことは、やはり、議員の皆様の御指摘があったように反省をすべきことだったと思っております。候補者の感覚のまま市長になり、そして、施政方針をそのまま出してしまったということは、私のチェックミス、想像力の欠如だと考えております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） この問題については、五、六人の議員から今日まで話がありましたので、これでやめますが。

やはり、2番目に、私が市長に所信表明で出してほしかった、これは、この一般質問でも出ていますが、秋月400年祭を非常に高く評価された質問になっています。これを検証していくわけです。そして、最終的には「ナマオケバトルはよかった」という話まで飛んでいくんですよ。ずーっと。

それで、これは、秋月400年祭、これ、歴史と文化の継承っていうのは、私は直接関わってきました。この400年祭の議会のほうにも話をして、4回の郷土史、これは教育長も副市長もよく御存じだと思いますけど、やりました。約1年かかって4回。1回だけは教育委員会のほうの講演でしたが、3回、私はやりました。

その中で、市長は最後の1回だけ来られました。はあー、あんまり関心がねえんだなあ。一生懸命来られた方は4回とも来られた方もおりますが。あー、後になって自分が言う言葉とやっていることは違うんだねと。

やっぱり主催しますとね、どなたが来てくれるか、やっぱり関心があるんですよ。そうでしょう。コンサートを開いたときに、パラパラよりも、ああ、あの人が来てくれていた。いやあ、うれしいとか。

やっぱり、その人たちのただ単なるそういうところだけじゃなくて、議員ですからね。将来を担っていく、将来、市長にもなろうという人が、本来ならば「400年祭に中心的に関わってもいい」と、「俺もやるんだ」っていうぐらいにやっても。しかし、私が見る限り、あなたの動きはほとんど見えなかった。ところが、後になったらいろいろ書いてある。ここにも、一般質問の中にも書いてある。

そして、この前、市長になられて米沢に行かれた。その話があって非常に感動したと。それはいいことですよええ。しかし、それまであなたの口から一般質問の中でも多く出たということは、私の記憶ではあんまりない。確かに、イベントには、ここでやられたのに参加したと思う。

そういった形での在り方が、先ほど言った総括という形になってきて、今後の市政をどうするかっていう話になるんだけど、それはそれとしていいでしょう。それはそういうことで、私から見ると、あんまり歴史とか文化に関心が、音楽をやられていたんだから、そっちのほうの文化には興味があるかもしれないけど。

朝倉市の歴史っていうことが非常に大きくクローズアップされているわけですから、じゃあ、それを基にして三名君フォーラムとか、あるいはそれに付随する文化活動をやろう、そしてそこに姉妹都市を結んでいこうという、大きなまた一つの目的があるわけですよ。

それに、最初にあなたの名前が出てきた西日本新聞は、上杉鷹山をNHK大河ドラマに取り上げてほしいということで、「うちの朝倉市長は積極的でありました」という西日本新聞の記事は一番最初に見ました。へえーっと思いましたね、私は。あなたがどこまでそれに関連してきたのかって、たまたま市長になったから言っただけじゃないですか。私もそこに関連していましたからね、表じゃなくて裏のほうで。いろんな面で、私も歴史関係の流れで上杉鷹山とか。

だから、そういったことが、やるって言うんだったら、この2番目にね、秋月400年祭のものを捉えて歴史と文化の継承という。それで、この話は何をやっているかという、朝倉市をどうして浮揚させていくか、将来の朝倉市の売りを何にするかっていう一つでしょう、これは。あなたはそういうふうに言っているわけだから。そして、観光との一体化っていうのを私は昔から言っていた。まさにそうでしょう。

歴史と文化の継承をしながら、観光というものを捉えながら、1つの大きな枠の中で、朝倉市というものの、ここには原鶴も入ってきますよ、三連水車も入ってきますよ、いろんなものが入ってくるんですよ。そういうふうに取り上げると。これこそまさに、朝倉市がこれから打って出なければならぬ大きな目標であり、目的じゃないですか。そういうふうにあなたが今までやってきていないけれども、今後この関連の中ではやろうとして言

っている。その後にこれが、所信表明が出ているわけですから。この公約とこれが一緒っていうこと自体もおかしいんだけど、私から言わせると。しかし、それでいいでしょう。

だけど、この所信表明には、先ほどの安心安全のまちづくりとダムの問題、河川の問題、災害に強いまちづくりをしていくということを打ち出していく。もう一つは、歴史と文化を継承し、観光と一体化した朝倉市ここにありという、それには観光に続く農産物の商品、それも一緒に売り出しをしていく。福岡でもそれをもう現実やっているわけですからね、毎年毎年。そういったものを所信表明で、私は打ち出すべきであったと思いますが、いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） すみません、ちょっとロジックがよく理解できていなかったんですけれども（発言する者あり）歴史と、最終的には、農産物を売り出すっていうその関係性っていうことになるんでしょうか。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 僕の話をよく聞いていますか。（発言する者あり）傍聴席の人が分からんっちゅうんだったら、私の言い方がおかしいんですけどね。

400年祭という、私たちにとっては非常に、秋月という宝物を持っている。このイベントをやった。朝倉市にとっては非常に大きな。しかも、そこに米沢、高鍋という三名君のフォーラム、これが絡んでくる。その中に、今度は歌舞伎が一つ入ってきている。それ以外にも文化事業が入ってきている。交流しているわけです。

すると、それを継承していこうじゃないかという形で、あなたがそういうふうに言っているんですよ、この中で。それと同時に、継承していただけじゃなくて、もう一つ、必ずこういう形でやっていけば、産業との、農業との関係も出てくるでしょうという話です。

そういった歴史と文化の継承をして観光と一体化させることによって、最後の農産物は、それに付随してぜひぜひ一緒にやっていきましょう。大きな枠でやっていかないかんでしょう。単発的なものを幾らやったって、打ち上げ花火でしかない、線香花火しかないんだ。やっぱり、何発も何発も絡めてやるから、みんな、うわーって見るんですよ。すごいねって。

今回もそうでしょう。歴史だけじゃなくて、文化事業としての歌舞伎とかその他、踊りとかいろいろ入っているから、みんなが、あなたが感激したっていうふうに、みんな感激している。

でも、これは——ああ、一言言っとく。それについて、私はやっていくべきではないかと。これが2番目と、朝倉市の課題であるということを言っとる。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まず私は、実藤議員ほどは歴史の勉強が、知識がないもんですか

ら、そのところは市長としてまだまだ学んでいかないといけないと思っております。三名君フォーラム、もちろん市長として行かせていただきまして、塚本市長、森田市長、林市長、そして私ということで引き継いでいきましたので、これはやっていかないとはいけませんので、ここは学びが必要だと思っております。

重ねて、朝倉は歴史がある町です。それで、歴史と観光というのは非常に親和性がありまして、結びつきが強いものだと思いますので、市長としてこれは学んでいかないといけないと思っております。

歴史は、私はあまり得意ではないんですけれども、ただ、首長になったということではいろいろな場面に遭遇すると思いますけれども、先人たちがどういった場面でどういったことを考えたほうがいいのかということは、歴史から学べると思っておりますので、リベラルアーツというのは必要だというふうに考えております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 19年間議員やって、これ。議長になられて。私が見る限り、歴史にそれだけ造詣がないというよりも、歴史に興味がないっていうか関心がなかったんじゃないですか。それで立場上、今度、地位は市長になり、それじゃいかんという形になって、今見ている。

「ふるさと人物誌」っていうのは知っていますよね、どれほど読まれましたか。「ふるさと人物誌」持っていますか。読みましたか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） たしか、最後は実藤議員が編さんされたと思うんですけれども、私の本棚には2冊、旧と新になるんですかね、ありまして。熟読したかといったらそこまでは熟読していないんですけれども、一通り目は通しております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 全部読まれたとは思いませんけどね。それが本音じゃないですか。この中でも全部読まれた方っていうのは、もう僅かですよ。

この前、私のところに一般質問に来られた、3月のときに係長が来たんですよ。名前は言いませんけどね。そしたら、私が「やめえ」って。歴史の話やいろいろするんですよ、私のところに来たときに。私が通告すると正直、荒波だから、「あんたたち帰って、何も言わんでもいいよ」っち言っているんだけど。1時間半から2時間、私の講演を聞くんです。

そして、その中で、せっかく、あなたが係長になって将来課長になっていく立場、そして、どこの立場に立つかわからないという、課に立つ。やっぱり、ふるさとっていうことを、郷土愛とか考えていくならば——その人、朝倉市の生まれ育ちの人ですからね。やはり、朝倉市の歴史を書いた本を読みなさいと。それで、やっぱり、ああー、自分の地域、杷木、朝倉、甘木。本当に教育長の先輩たちが集まって、私も含めてやったんですけどね。

それは、そうそうたるメンバーが無報酬でやりましたからねえ。本当にすばらしい会でした。

あれでね、やっぱり読まないっていうのはね、おかしいねえ。やっぱり、それは読んでほしい。それで、1日に1つ読めばいい。40ありますから。40人。忙しいときもありましょうから、一つ一つ。それで、分野がずーっと分かれていますからね。

ただ、そういったことも含めて、そういったものが、やはりこれから先の、ただ、今、言葉として「やらないかん」とか「歴史がどうだ」とかいう話じゃなくて、市長がそういうことに対して「意欲を持ってやるぞ」って、「俺は、今まではこうやったけども、これから先は歴史も文化も、市長として行政に、市民に反映させる」って、このために私は言っているんですよ。帰られた方々がどう言って帰られたか分かんないんだけど。私があんまり追い詰めるから帰ったかなと思いつつ、ちらちら見てはいるんですけどね。私は構わんですよ。私の質問は、市民と市のためになると思っているから。

そうですね、市長さん、この問題についてどう思いますかあーって言って、あなたどういうふうに答えますか。柴山議員と一緒に、やっていうふうに言うと、緊張しながら、やらないかんっちならんですか。そういったことを私は狙っているんですよ。

それで、やっぱり先頭に立つ者が、この――後でもやります、プライオリティーってやつをね。プライオリティー。あなたの好きな英語、プライオリティーね。これが大事だと。

でも、当面、一番大事なものは、安心安全な災害に強いまちづくりという、その災害復旧をやっていく、河川敷で治水対策をやるという、この一つ。

もう一つは、先ほど述べた、歴史・文化の継承プラスアルファをつくっていくということです。

それで、その次に、今、もう現職の市長ですからね。私がどんなに、幾ら言ったって、4年間、不祥事件やいろいろな起こさん限りは、あなた市長ですからね。（拍手）（「頑張れ」と呼ぶ者あり）ああ、激励が出ました。

○議長（小島清人君） 質問の途中ですが、傍聴人に申し上げます。傍聴人は議事について可否を表明し、または騒ぎ立てることは禁止されておりますので、静粛にお願いします。

○16番（実藤輝夫君） ということで、心の拍手をお願いします。（発言する者あり）

○議長（小島清人君） すみません、繰り返し申し上げます。議長の判断でございますので質問は、傍聴人に申し上げますが、騒ぎ立てないように、ひとつお願いしたいと思います。

○16番（実藤輝夫君） 時間がありませんので、続けます。

○議長（小島清人君） 質問を続行してください。

○16番（実藤輝夫君） 激励を頂いておりますが、うれしいことであります。

しかしながら、私は先ほどから言いますように、中島市長が憎いわけでも何でもない。

ただ、こびを売るつもりもない。やっぱり、普通で言うならば「中島さん」ですよ。私はあなたの先輩で、あなたは後輩で立場がある。だから、立場上、その場所においては市長としてちゃんと敬意を表します。

しかし、一旦外れれば「中島君」ですよ。でしょう。早野教育長もそう、みんなそうですよ。私も、そげん呼ばれてきました。それが人間関係なんですよ。常々、いつもかつもね、「中島市長、中島市長」って、もう。学校も外れ、どこで、友人関係も外れて、そういう呼び方をするのは、本当の友情でも何でもない。

やっぱり、私たちはそういう育ち方をしてきましたので、1つ違えば「何々」っち呼び捨てしながら、かわいがってきました。「何々」っち呼ばれながら、かわいがられてきました。そして、和をつくってきた。これが、あなたが望むような地域のつながり、今どんどん消えちよる。

でも、そういう呼び方を、今日は市長として敬意を表しながらやっていますけど、言い方は、市会議員として職責を全うするために厳しくやっていきます。

それで、これが、この中に出てくる「若い人の流出をストップする」ということで、若い人材あるいは人材育成の取組をやっているかということがテーマになっております。これはどこの、先ほども言いましたが市町村もやっているわけですね。これはもう、あなたが言う、まねしてなるものはいっぱいあります。

ところが、市長として、今回なって、今、朝倉市はどういう施策をしているか知っていますか。何もしていませんか。それとも、何かやっている。あなたはどう思いますか。若い人が流出しないように人材が育成されるような施策を、朝倉市は取っていませんか、取っていますか。取っていると思います。当たり前、答えは。どうのことを市長として認識していますかって。市長としてですよ。企画部長とか何とかが言う話をするんじゃない。あなたがトップとして「こうなんだ」って知っておかなければ施策は進まない。お願いします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 議会の中でも申し上げましたように、住宅支援の部分であったりとか、そういった部分では手厚いたくさんのメニューを準備しているというふうに承知しています。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） ズーっと13人の一般質問を聞きながら、もう抽象的なねえ。具体的な「こうだ」とかっていうのがほとんど私には聞こえてこない。

幾つもあるんですよ。これ、もう何回も言うんです。3か月前に、あなたが一般質問した中身を私は言っていて、忘れましたっていうことはないし、知りませんっていう話でもないでしょう。当然、自分がやった一般質問の中身を十分承知しているはずだ。

そして、これをなぜ聞くかっていうと、職員の名誉ですよ。何か今回も含めて、職員が

今まであんまりやっていないような印象を受ける、私は。だから、職員にハッパをかける。後でもこれ、やりますけどね。そうじゃないでしょうって。やはり、いろいろやってきたんだと。

それで、こういう施策をやっているということを、市長は認識しておかなければならない。これは、企画部長が前、三浦部長、今度は中村部長が3月にやって、今回、一般質問の中でも、企画部長として中村部長が答弁しました。その中身は一緒。中身は、この文章と一緒に。だから、2か月しかたっていないから分からないでしょうと思う。

19年間議長も務め、いろんなことをやってきて63回一般質問した人が、今、朝倉市で、あなたが一番言おうとしている若い人の流出を止めて、人材を育成していくための施策を、どうのようなことをやっているかっていうのは知っていなきやおかしいでしょうもん。具体的に何をやっているんかって。それが分からんで、「この先チャレンジせろ」「お前たちが企画せろ」って、そんな話じゃないでしょう。私が部長であり課長であり係長なら、市長——クビになっていいから、「こんなことをやっていますよ」って。その成果が出たか出らんかについては責任を取ります。

でも、市長がこれをやるんだったら、あなたはこれをどういうふうに改善して、どうしてくれっていうふうに言ってもらうと、私はやります。全てを私に全部言うっていっても、今やっていること以上に、僕の実力ではできないね。最大に一生懸命やっているんじゃないですか。今の能力と知識でやっていない人がおるんですか。じゃあ、それに対して、市長はまだ足らんとするのは自由です。そして、そのためにやるんでしょう。

じゃあ、前提になるものは何かっていうことをちゃんと知っておかないと、抽象的な総論の話で、こうしないといかんですよ。何十回聞いても先に進まない。具体性のある話でないといかんということです。

じゃあその次に、時間がもうあとありませんので、残りはこの一番大事な話に進みますけれども。

いろんな施策をやっていく上で、国と県との関係が一番大事ですね。国と県との関係をやっていく場合に、あなたは自民党ですよ。自民党であって、地元の県会議員、国会議員、そして、福岡県の自民党、服部知事、お会いしました。そして、いろいろ要望しました。どうですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 会ったかということですかね。（発言する者あり）今から会いますかということでしょうか。（発言する者あり）

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 一番大事な話ですよ。今後、幾らいろんなことを述べても、国の補助、県の補助、その関係がなかったら事業は進まない。これを、人間関係を取っているかどうか。

そして、2か月と言われる、まだ2か月。もう2か月。まだ取っていないという話を聞いています。こんなことでいいのかってことを私は聞いている。それに対して、あなたはどうか。当然、行って挨拶してしかるべき依頼をしていくのがあなたの役割ではないですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） まだ県知事を訪ねていたり、正直言ってしておりません。ただ、県知事とは当然、会合とか会議でお会いしますので、そこでは御挨拶はさしあげております。そういった中で、必要があれば訪ねていきますし、代議士であつたり県議のところにも、御挨拶には行ってはおります。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 何を言っているんですか。愕然としますねえ。今、私の耳に入ってくるのは、職員は言われたいんだけど、いろいろ県との関係でも問題が出ている。当然、あなたは何をしてもそういった関係の人たちに出て——昨日の話では、その話が出たときに「市のためになら泥水でも飲みます」と。当然、行って、今の朝倉市のこの厳しい状況を訴えて頼むとが筋じゃないですか。

私は、皆さんが今回まで13人の方が言った行政の問題は、単独でできるものはもう僅かしかない。本当に国、県との関係、いろんなものが、自民党福岡県議団の力によっても動く。そうした人たちに挨拶しないなんて。正式に行って挨拶すべきじゃないですか。それが筋です。長としては。いかがですか。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 私は、先ほども申し上げましたように、泥水を飲んでも、市民のためだったらやります。ですから、必要があれば行きたいと思っています。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） その言葉は誰でも言えるんだよ。恥をしのんでも行くとかじゃなくて、当然の職責として、ずっと行って「お願いします」って。あなたは何人かの人に言っていますよね。古賀誠さんとかね。それはいいですよ。当然、言わないかん。言っていないですか。会っていないですか。当然、そうした人たちとの関係をつくることによって、職員が県の職員、国の職員とうまくやって、行政の施策に対して補助がつくような形をと。

それが昨日の、柴山議員が「あなたの職責の一番大事なのは、国に行って、県に行って予算を取ってくることだ」っち、力強く言ったときに、向こうから「失礼なあー」っていう言葉が出た。何が失礼ですか。私は拍手しましたよ、心の中で。それが一番の市長としてね。施策は、副市長も教育長もみんなやっていきますよ。でも、予算を取る力っていうのは市長しかない。

私はもう時間があんまりありませんので、最後に、簡単に今後の方針を出してください。国、県との関係。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（中島秀樹君） 実藤議員の御指摘でいきますと、私は物が見えていないのかもし
れません。ですから、そこはよく考えまして改めていきたいと思っております。

○議長（小島清人君） 16番実藤議員。

○16番（実藤輝夫君） 職員が本当に困る。これから先も困っていく。早くね、もう泥水
を飲んで、恥でも何でもない。当然の職責。朝倉市の市民のために、その方々との連携を
取ってほしい。

時間がもう来ましたので、これをもちまして、今回の一般質問を終わります。ありが
うございました。

○議長（小島清人君） 16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。これにて一般質問を終了いたします。

次の本会議は明日19日午前10時から行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時30分散会